

第15回 自然共生河川研究会報告



岐阜分室 大竹 良昌

自然共生河川研究会は、自然と共生した川づくりの一層の展開に資することを目的として、平成7年度から（財）リバーフロント整備センターと（財）ダム水源地環境整備センターとが交互に開催し、本年が第15回となり岐阜分室が担当しましたので、その内容等について報告します。

◎テーマについて

地球上における水の循環の過程においてあらゆる生命体が生まれ、文明が営まれて「水が生命の源」と言われてきました。この水循環に人為を加えた結果、世界中において様々な問題が発生しています。今回は地上の水循環系である「山」、「川」、「海」についてその機能、環境に与える働きや人間社会との関わりについて講演していただくこととして、テーマを「水循環」～山から海まで～としました。

◎研究会について

研究会は、平成19年2月2日（金）名古屋駅前の名古屋通信開館において学識者をはじめ国、県、法人、大学生、一般と約180名の出席により盛大に開催できました。

冒頭、竹村理事長の主催者挨拶のあと、来賓の金井道夫中部地方整備局長からは、中部地方においても「ごみ」、「河川の水質」など環境問題が深刻な状態。一地域で取り組むのではなく流域全体で役割分担して取り組まなければ本格的な解決にはならない。この研究会で具体的な提言をいただければありがたいとご挨拶をいただきました。

演題と講演者を紹介し、講演概要を報告します。



1) 特別講演 「木曾川と地球史（レッドチャート）」 東京大学大学院助手 角和 善隆 氏



木曾川の犬山付近（名称：日本ライン）に露出するチャート（黒、灰、赤色）の正体、地質学的・地球史的意義などについて講演をいただきました。この付近のチャートは約2億5千万年～1億5千万年前にかけて遠洋・深海で放散虫が堆積し、プレート移動で日本付近に到達し上昇（付加体）したものの。日本列島の基盤を形成するものであり、日本の地質構造発達史を変え、かつ、生物の五大絶滅事件のうち3つがあるという貴重な場所であり、誰が行ってもすごい場所だとわかるようにしたいと結ばれました。

研究会に先立ち、2月1日（木）に河川管理者である木曾川上流河川事務所の職員を主とした現地視察（犬山周辺木曾川河岸の地質観察会）を開催し、角和先生に現地案内とご説明をいただきました。



2) 講演

I. 「森林流域の水循環」

(独) 森林総合研究所 藤枝 基久 氏



森林における水循環の特徴について、ウルグワイや全国の森林水文試験地での研究や実験をもとに、森林の持つ水循環系に与える働きや森林土壌の雨水の貯留メカニズム及び貯留量について講演いただきました。森林の水源かん養機能には「過大な期待」と「過小な評価」が混在するが、森林の水環境に基づいた理解が必要であり、森林研究所は得られた成果を出来るだけ皆様に公表していきたいと結ばれました。

II. 「古代水利と新しい水利・中国」

関東学院大学教授 宮村 忠 氏



「水に学び・水と生きる」という演題に対して、中国の3地区（桂林、成都、杭州）の運河における古い水利用、水と付き合う施設と新しい施設を紹介するとして、テーマを「古代水利と新しい水利」と題し講演をいただきました。これら運河は古い水利の上に若返りを行い古代水利を生き返らせたという意味で「川の生き方、川に学んで川と生きる」ことが重要と結ばれました。

III. 「海の働きと地球環境」

(独) 国立環境研究所 功刀 正行 氏



「海と係わる水の循環」と「海を中心とした物質循環」について6年間の世界の海での観測も交え講演をいただきました。水の循環では非常に少ない河川水（全体の0.0001%）を利用できるのは循環（回転）期間が2週間という早さがあるから利用できる。また、海洋では海水の表層循環、深層循環や物質循環が地球における気候や物質移動の非常に重要な働きをしている。環境問題を考える上では、人間社会が原因であり、そこを少し考えれば環境問題の解釈、そこから解決のめどが立つのではないかと。このことを子供、お母さんに知っていただきたいと結ばれました。

3) 質疑応答

講師の方々と参加者で短い時間ではありましたが質疑応答を行いました。学術的や研究中の話題に加え政治的な解釈論、中部地方での環境問題など多くの参加者から多くの質問があり、講師からわかりやすい説明をしていただきました。

◎おわりに

ご多忙にもかかわらず、ご講演を引き受けていただきました先生各位、ご出席いただきました中部地方整備局長様はじめ多くの方々には厚く御礼申し上げます。最後になりましたが、開催にあたりまして(財)ダム水源地環境整備センター、(財)リバーフロント整備センターの職員の方々のご協力に感謝申し上げます報告とさせていただきます。